

国立大学法人及び大学共同利用機関法人の
第2期中期目標期間における各年度終了時の評価に係る実施要領

平成22年6月28日
国立大学法人評価委員会決定

一部改正：平成23年10月27日

一部改正：平成25年11月6日

1. 概要

- 各年度終了時の評価は、各法人の自己点検・評価に基づいて行う。具体的には、各法人の年度計画の実施状況等に基づき、中期計画の各項目の進捗状況を確認（項目別評価）し、その結果等を踏まえ、各法人の特性に配慮しつつ、中期計画の達成に向けた進捗状況の総合的な評価（全体評価）を行う。
- 各法人の質的向上を促す観点から、戦略性が高く意欲的な目標・計画等は、達成状況の他にプロセスや内容を評価する等、積極的な取組として適切に評価する。
- 各法人の自己点検・評価が着実に行われているかどうかについて、書面及びヒアリングを通じて確認する。
- なお、別添の「共通の観点」は、平成22年度から24年度までの取組状況については、平成25年度に実施する平成24年度評価において、その状況を評価し、平成25年度から27年度までの取組状況については、平成28年度に実施する第2期中期目標期間評価において、6年間を通じた評価を実施する中で、その状況を評価する。
- また、文部科学省において「今後の国立大学の機能強化に向けての考え方（平成25年6月20日）」（以下「機能強化の考え方」という。）を策定し、平成25年度から27年度を「改革加速期間」と定め国立大学の機能強化に取り組むこととしていることから、平成25年度から27年度の評価においては、中期目標・計画に掲げている事項のうち、「機能強化の考え方」を踏まえつつ各法人が取り組んだ状況についてもフォローアップし、社会にわかりやすく発信する。

2. 実施方法

(1) 項目別評価

ア. 法人による自己点検・評価

- 「業務運営・財務内容等の状況（業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び情報提供、その他業務運営（施設設備の整備・活用、安全管理等）の4項目）」について、年度計画の記載事項ごとに事業の実施状況を自己点検・評価し、実績報告書に以下の4段階により進捗状況の記号を記載する。

ただし、平成24年度評価では、進捗状況の記号及びその判断理由を記載する。

なお、項目内の各記載事項の重要性等を勘案してウェイト付けができる。

進捗状況	
「年度計画を上回って実施している」	()
「年度計画を十分に実施している」	()
「年度計画を十分には実施していない」	()
「年度計画を実施していない」	()

- ・ 「教育研究等の質の向上の状況」については、実績報告書の「全体的な状況」欄に総括して記載する。ただし、「平成24年度補正予算(第1号)」に関する目標の状況については、上記「業務運営・財務内容等の状況」と同様の方法により記載する。

イ．国立大学法人評価委員会による検証

- ・ 「中期計画の達成に向けて、各年度の業務が順調に進捗しているかどうか」という観点から、年度計画の記載事項ごとに、自己点検・評価(ウェイト付けを含む)や計画設定の妥当性も含めて総合的に検証する。
- ・ 法人による自己評価と国立大学法人評価委員会の評価が異なる場合は、その理由等を示す。

ウ．国立大学法人評価委員会による評定等

- ・ イ．の検証を踏まえ、項目ごとに中期計画の達成に向けた業務の進捗状況を示すとともに、特筆すべき点や遅れている点にコメントを付す。なお、平成24年度評価では、「共通の観点」に関する取組状況等も勘案する。
- ・ 進捗状況は、以下の5段階により評定する。なお、評定は、基本的には各法人の中期計画に対するものであり、相対比較するものではないことに十分留意する必要がある。

評定	判断基準(目安)
中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある	国立大学法人評価委員会が特に認める場合
中期計画の達成に向けて順調に進んでいる	すべて 又は
中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる	又は の割合が9割以上
中期計画の達成のためにはやや遅れている	又は の割合が9割未満
中期計画の達成のためには重大な改善事項がある	国立大学法人評価委員会が特に認める場合

- 1 上記の判断基準は目安であり、各法人の諸事情(「共通の観点」に関する取組状況等を含む。)を勘案し、総合的に判断する。
- 2 各法人がウェイト付けした事項を勘案し、評価する。
- 3 学士・修士・博士・専門職学位課程ごとの収容定員の充足率が一定程度(90%)以上となっているかどうかを勘案し、評価する。

- ・ 「教育研究等の質の向上の状況」については、実績報告書の「全体的な状況」欄の総括的な記載等を踏まえ、注目すべき点にコメントを付す。ただし、「平成24年度補正予算(第1号)」に関する目標の状況については、上記「業務運営・財務状況等の状況」と同様の方法により評定を行う。

(2) 全体評価

項目別評価結果及び実績報告書の「全体的な状況」欄の総括的な記述等を踏まえ、各法人の特性に配慮しつつ、各法人が中期目標の前文に掲げている「基本的な目標」に対する具体的な取組状況及び中期計画の進捗状況を記述式により評価する。なお、平成25年度から27年度においては、中期目標・計画に掲げる事項のうち、「機能強化の考え方」を踏まえつつ取り組んだ状況についても、記述する。

(3) 法人への意見申立て機会の付与

評価の透明性・正確性を確保するため、評価結果の決定に先立ち、各法人に評価結果案を示し、意見申立ての機会を付与する。

(4) 評価結果の決定・公表

評価結果を決定した後、各法人に通知するとともに、実績報告書と併せて公表する。

3 . スケジュール

6月30日まで	各法人が実績報告書を提出
7月～8月	実績報告書を調査・分析
8月下旬～9月	評価結果案の策定、各法人に提示
9月	評価結果案に対する各法人の意見申立て
10月下旬	評価結果の決定、各法人に通知・公表

共通の観点

1. 業務運営の改善及び効率化

戦略的・効果的な資源配分、業務運営の効率化を図っているか。

各法人の総合的な戦略や状況に応じた柔軟かつ迅速な物的・人的資源の配分が進められているかどうかという観点から評価することが必要である。また、法人内のコンセンサスの確保に留意しつつ、教育研究活動の進展や社会のニーズに機動的に対応するため、迅速かつ効率的な意思決定と業務執行がより一層求められており、業務運営の合理化や管理運営の効率化が進められているかどうかという観点から評価する。

(確認事項例)

- ・ 学長・機構長等の裁量の予算、定員・人件費の設定状況

外部有識者の積極的活用や監査機能の充実が図られているか。

外部有識者の活用により運営の活性化が図られているかどうかという観点から評価する。また、内部監査の組織が適切に整備され監査が実施されると共に監事や会計監査人による監査結果を適切に運営に反映させるなど、監査機能の充実が図られているかどうかという観点から評価する。

(確認事項例)

- ・ 外部有識者の活用状況
- ・ 経営協議会の審議状況・運営への活用状況及び関連する情報の公表状況

2. 財務内容の改善

財務内容の改善・充実が図られているか。

国費の投入により支えられている法人において、財務内容を改善することは重要な課題であり、法人の目的に照らして経費の節減、自己収入の増加及び資金の運用が図られているかどうか、財務分析を実施し、その分析結果を運営の改善に活用しているかどうかという観点から評価する。(附属病院を置く法人は、継続的・安定的な病院運営のために必要な取組も含む。)

(確認事項例)

- ・ 資金の運用に向けた取組状況及びその運用益の活用状況
- ・ 財務情報に基づく財務分析結果の活用状況

3．自己点検・評価及び情報提供

中期計画・年度計画の進捗管理、自己点検・評価の着実な取組及びその結果の法人運営への活用が図られているか。

法人が中期計画・年度計画を計画的に実行しているか、自己点検・評価の着実な取組及びその結果の法人運営への活用が図られているかどうかという観点から評価することが必要である。

（確認事項例）

- ・ 中期計画・年度計画の進捗状況管理の状況
- ・ 自己点検・評価の着実な実施及びその結果の法人運営への活用状況

情報公開の促進が図られているか。

法人が社会的使命を果たしつつ、その活動を行っていくため、教育研究等の状況について積極的な情報提供が求められており、情報公開の促進が図られているかどうかという観点から評価する。

（確認事項例）

- ・ 情報発信に向けた取組状況

4．その他の業務運営

法令遵守（コンプライアンス）及び危機管理体制が確保されているか。

法人が社会的使命を果たしつつ、その活動を行っていくため、法令遵守（コンプライアンス）及び危機管理体制が確保されているかどうかという観点から評価する。

（確認事項例）

- ・ 法令遵守（コンプライアンス）に関する体制及び規程等の整備・運用状況
- ・ 災害、事件・事故等の危機管理に関する体制及び規程等の整備・運用状況

（注）なお、確認事項は、別途定める「平成25～27事業年度における「共通の観点」に係る取組状況に関する資料」に記載する。